

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 20 年 6 月 19 日 (2008.6.19)

【公開番号】特開 2006-330532 (P2006-330532A)
 【公開日】平成 18 年 12 月 7 日 (2006.12.7)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-048
 【出願番号】特願 2005-156560 (P2005-156560)
 【国際特許分類】

G 1 0 H 7/02 (2006.01)

G 1 0 H 1/057 (2006.01)

【F I】

G 1 0 H 7/00 5 2 1 T

G 1 0 H 1/057 Z

G 1 0 H 7/00 5 2 1 S

【手続補正書】
 【提出日】平成 20 年 4 月 23 日 (2008.4.23)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

奏法に関する波形特性を楽音の部位毎に定義した奏法モジュールを時系列的に組み合わせ、該組み合わせに従って少なくとも 2 以上のチャンネルを用いて複数の波形を順次にクロスフェード合成することで一連の楽音波形を出力する楽音合成装置であって、

演奏情報を取得する取得手段と、

前記取得した演奏情報に応じて、クロスフェード特性を変更するか否かを判定する判定手段と、

前記判定に従って、前記演奏情報を取得した時点で既に開始済みであるクロスフェード合成におけるクロスフェード特性を自動的に変更する変更手段とを具備してなり、

前記演奏情報を取得した時点で既に開始済みであるクロスフェード合成のクロスフェード特性を自動的に変更することで、前記取得した演奏情報に応じて時系列的に組み合わせられる後続する奏法モジュールの時間的な配置位置を制御することを特徴とする楽音合成装置。

【請求項 2】

前記判定手段は、前記取得した演奏情報に応じて時系列的に組み合わせられる奏法モジュールがリリース部又はジョイント部いずれかの部位を定義した奏法モジュールである場合に、クロスフェード特性を自動的に変更するように判定することを特徴とする請求項 1 に記載の楽音合成装置。

【請求項 3】

前記変更手段は、既に開始済みであるクロスフェード合成の完了時刻を算出し直し、該算出し直した完了時刻までに当該クロスフェード合成を完了するよう、前記完了時刻に基づいて各チャンネルにおけるフェードイン又はフェードアウトの度合いを早めるよう、クロスフェード特性を自動的に変更することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の楽音合成装置。

【請求項 4】

コンピュータに、
演奏情報を取得する手順と、
前記取得した演奏情報に応じて、クロスフェード特性を変更するか否かを判定する手順と、

奏法に関する波形特性を楽音の部位毎に定義した奏法モジュールを時系列的に組み合わせ、該組み合わせに従って少なくとも2以上のチャンネルを用いて複数の波形を順次にクロスフェード合成することで一連の楽音波形を出力する際に、前記判定に従って、前記演奏情報を取得した時点で既に開始済みであるクロスフェード合成におけるクロスフェード特性を自動的に変更することで、前記取得した演奏情報に応じて時系列的に組み合わせされる後続する奏法モジュールの時間的な配置位置を制御する手順と
を実行させるためのプログラム。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明の請求項1に係る楽音合成装置は、奏法に関する波形特性を楽音の部位毎に定義した奏法モジュールを時系列的に組み合わせ、該組み合わせに従って少なくとも2以上のチャンネルを用いて複数の波形を順次にクロスフェード合成することで一連の楽音波形を出力する楽音合成装置であって、演奏情報を取得する取得手段と、前記取得した演奏情報に応じて、クロスフェード特性を変更するか否かを判定する判定手段と、前記判定に従って、前記演奏情報を取得した時点で既に開始済みであるクロスフェード合成におけるクロスフェード特性を自動的に変更する変更手段とを具えてなり、前記演奏情報を取得した時点で既に開始済みであるクロスフェード合成のクロスフェード特性を自動的に変更することで、前記取得した演奏情報に応じて時系列的に組み合わせされる後続する奏法モジュールの時間的な配置位置を制御することを特徴とする。